

# 新山協ニュース

△ 発行者 平田大六 △ 発行所 新潟県山岳協会  
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

## 文部省岩登り講習会報告

国体委員 苅部一雄

さる7月29日(土)から8月1日(火)の4日間にわたって、標記講習会が文部省の主催、日本山岳協会の後援により富山県剣岳において開催された。

参加者は私を入れて7名であり(実際は8名だったが1名はタイヤ落しで捻挫して帰る)先生方は5名で指導を受けた。このあと剣へ入山、(4日間分の食糧、登攀用具等33kgを



北海道に華咲く

成年女子堂々

総合4位入賞

後藤邦子さん

助川園子さん

設楽なつ子さん

高橋秀樹さん

おめでとう



成年男子 登攀6位入賞 おめでとう

担がされた) 剣沢

にある文部省前進

基地小屋へ行き、

明日以降の計画を

たてた。今年は雪

がたいへん多く、

キャンプ地でのテ

ントを張ることが

できず、3日間こ

の小屋泊りだった。

30日、別山の岩

場で自己確保の練

習、ハーケン、フ

レンズ、ロックス、

などによる支点の

取り方、ルートフ

ァインテング、下



別山より剣岳

降技術等、理論的

にどのようにしたらより安全

かを追求しながら、実際班毎

に1人ずつ実技し、納得のい

くまで練習した。夜は明日の

ルートについて、各班毎にミ

ーティング。

31日早朝出発、班は1班か

ら5班まで、1班は生徒1名

でⅦ峰Eフェース/剣岳/剣

沢、2班は生徒2名でⅦ峰C

フェース/長次郎/剣沢、3

班は私でⅣ峰フェース/剣岳

と剣沢、4班生徒2名でⅦ峰

とだった。(雪渓を歩くスピ

1ドが違う)

IV峰フェース取り付き8時30分、終了10時30分、45mザイルいっぱい6ピッチ、高度差200m、2時間であった。この間、先生がトップで、前日練習したことすべてやってみせてくれて、とにかく勉強になった。ルートの取り方、岩に対しての安定したバランス、確保しながら見ていてすごいと思った。これからまたV、VI、VII、VIII、本峰と縦走しなければ……。VIIの頭で1班、5班を待っていっしょに剣沢へ帰る。

1日早朝、「高みへのステップ」という文登研の岩登りビデオを見せてもらい文登研へ帰る。最後に研修所において閉会式を行ない、修了証書を受けとり解散であった。閉会式の中である先生が、「とにかく自己確保、支点の取り方については、しっかりマスタリして帰るように。」と言われ、会に帰っても正しい技術を伝えてほしいとのことでした。

以上4日間、充実した講習会であり、天候もよく、すば

らしい先生にも恵まれ、私自身講習を受けてよかったと思えました。

後になってしまったが、先生方の紹介をする、1班松本山窓会の鈴木伸司、2班泉州山岳会の西村晶、3班岡山

七賢を偲ぶ会追悼文 ②

森谷周野さんを偲ぶ

佐久間 悼 一

私と森谷さんのおつきあ

影響を受けました。

いは、彼が新発田中学の物理教室の助手をしていたときから始まって、終生続きました。

以上転戦し復員します。そして石屋からサラリーマンに転職します。そして山登りと民俗を続けていました。

当時、彼は芝中山岳部の指導をしていて、そのかたわら、私と一緒に山登りをしていました。体格のいい彼と、小さな私が大きな荷を担いで歩いていると、近所の人は、大きいのと小さいのがまた山へ行く、とよく噂したものでした。

越後三山をひっさげる県岳連代表の彼と、飯豊連峰会場の主張する藤島さんと対決するわけです。

その後、彼は明治大学に入学し大学山岳部に所属し、山の民俗の研究者の高橋文太郎氏を知るようになり、彼は民俗学にのめりこむようになりま

こうして国体登山では、飯豊連峰でJACと県岳連が一

本となった力で成功させることができたのです。そして現在山岳団体は、全県下県山岳協会一本に纏って事業ができるようになっていっています。

当時、彼はJAC会員でありながら、本部に直接送金して(会費等)越後支部に入っていないかっと思えます。

お互いを強く意識しながら直

はなかったと思います。私は県民俗学会の関係で2ヶ月に1回位は逢っています。私は彼を失った今、藤島さんの子分の一人として自認しており、山登りにおいても民俗研究でも、常に彼を意識していた、よき意味のライバルであったと痛感しています。私は今目標を失った船のようなものです。(7月22日)

岩登り講習会報告

技術委員長 阿部 信 一

岩登りの初心者を対象として基礎的技術の研修を目的とし、去る6月24日夜と25日にかけて、新発田市内の倉ダム杉滝岩にて行なわれました。24日、雨模様で天気不慮配された前夜祭は、特大テントにお届けづいたか、テントを張り終わる頃から雨も上がり、雲も切れ、月も顔を見せてくれました。それぞれ持ち寄った県内各地の名酒により、より一層盛り上った前夜祭となりました。

13団体42名の参加者で、翌朝8時より実技講習会を始めました。毎年講習会要点を、段階的に、次の8項目に分け、自分のマスターしたいものを申告してもらい、より効率的、系統的な研修会に出来たらと考えています。前技術委員長 ①ザイルの結び方(ブーリン、エイト、インクノット、ブルージック、テグス、ゼルバンエイト、テープ、二

重ブリーチン

②用具(ゼルプストバンド、ヘルメット、カラビナ、シユリング、ハーケン、ハンマー、グローブ、ボルト、8環)

③登り方(三点支持、ホールドスタンス、ルートファイ

④懸垂下降(8環、肩がらみ)

⑤確保(肩、胴、グリップ、半マスト、セルフビレイ)

⑥登攀(プルージック登攀、隔時登攀)

⑦脱出(確保後の)

⑧確保の実技(タイヤ落し)

以上の要項別に、受講生の申告により、限られた時間内に、より上の項目までマスタ一して頂ければという思惑でありました。

なるべく、個々のレベルにあった講習をと思い、多勢の優秀な講師の方々にお集り頂き、お骨折りを頂き、大変感謝致す次第であります。昨今、岩登りも、どんどんハイレベルなフリークライミングと、又、従来のアルペンのなクイミングと、段々と離れて行く様な気がしますが、基礎的

な技術、用具の使い方は全

て共通であります。一つの小

さなミスが、とり返しのつかなくなるのが、岩登り技術だ

と思えます。これからのますますの技術研鑽と安全で楽しいクライミングを願って止み

ません。

温かい協力者

賛助会員制度

協会の資金不足を補なう一助にと、賛助会員制度が出来て今年で4年目になります。今年も7月末現在下記の方々から賛同をいただきました。募集は年度末まで行なっておりますので、意の有る方は是非御協力お願い申し上げます。年会費 10000円 銀行振込

第四銀行新発田支店  
普通口座 1239508  
新潟県山岳協会賛助会宛

平成元年度賛助会員名簿  
石田国夫、望月力、鈴木敏雄、小林兼一郎、杉原八百樹、室賀輝男、藤井信、堀井浩、笠原藤七、長谷川重郷、吉田光吉、今成幸夫、佐久間惇一、小林重弘、酒井定勝、佐藤一栄、畔上次郎、田中純夫、上村幹雄、上野寿一、加藤明文、遠藤家之進正和、渡辺猛、田中栄弘、渡辺靖男、杉本敏、土田幸雄、北村猛、五十嵐篤雄

ひとりごと

編集子

とうとう夏枯れてしまっ た。ニュースが定期発行出来 なくなりそう。会報係とし て、各位に原稿依頼を一生懸 命やっているつもりだが、な かなか原稿が集まってこない。 エッセー、各会の山小屋紹介、

最近協会の行事の参加者が少ない、と担当者は嘆く。言われてみればもともなことである。年中行事予定は年度当初案内されるが、詳細は担当者が必要を成案として再度案内する。それもニュースを通してである。担当者は成案を1ヶ月程前に編集係に届けるが、ニュースの割付、校正、発行と2週間は費やされる。受け取った会員が行事の詳細を知るには、あまりにも時間不足である。案内は2ヶ月前に編集係に届くようお願いしてあるのだが、なかなか届かない。しかたなく督促状を送となる。

また山岳会における会員の反応も鈍いと感じる。自然保護の問題、遭難問題(山菜、溪流、集団登山、登攀、登山等)等社会問題になっても、担当の山岳界がうんともすんとも反応しないのは困ったものと思う。そこで何も考えていないのかと思えば、集った時に正論を堂々とやる。これでは内弁慶と言われかねない。もっと積極的に社会に向けて

各地区の山の紹介、紀行文、そして報告。この内容を中心

主張を發するべきであると思  
うし、問題に対応する為の委  
員会も存在していることであ  
るから責任を果たすべきと思  
う。

指導員資格者は、2年間で  
4回の実技研修会への参加が  
義務づけられている。

協会加盟団体におかれては、  
各地区の持ち山をコツコツと  
一生懸命守っておられること  
は、風の便りに聞く。地域で  
の活躍には敬意を表します。  
また整備された登山道を使わ  
せてもらっている者として、  
奉仕者の苦勞を会員に語り知

らせてやらねばならないと思  
う。

今協会加盟76団体の代表が、  
協会行事に参加してください  
ば76名の参加者になる。先程

の指導員のように参加するこ  
とに義務とは言えないが、加  
盟団体は協会行事に参加する

ことができる権利があるので  
す。広い県内各地から代表が  
集い、各地域の情報交換に華  
を咲かせようではありません  
か。そして言いたいこと、主  
張したいことを一筆走らせて、  
ニュースに投稿お願いします。

### 悠峰山の会会報

#### 「悠峰二号」発行

紹介 五十 篤 雄

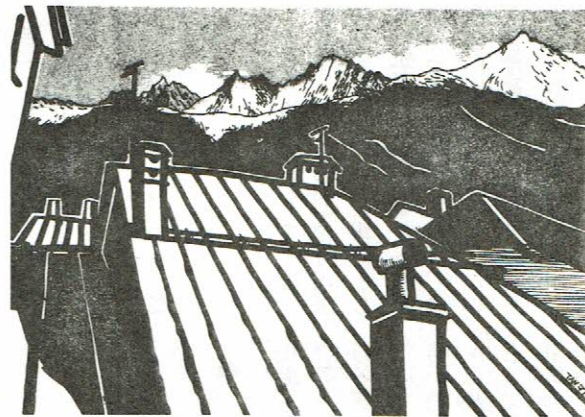
悠峰山の会の創立は昭和53  
年であり、今年で11年目にあ  
たる若い山岳会である。

創立10周年を記念して発行  
したものだそうであるが、会  
報をだすということは誰でも  
希望することであるが、いざ  
作業にかかると、原稿が集ま  
らない、編集委員の集まる機

会がない等、思ってもいない  
難問がでてきたりして、なか  
なか、むづかしいものである。  
結局、誰か夢中になってくれ  
る人がいないと、ながびいて  
しまうことが多い。悠峰2号  
も1年がかりだったようであ  
るが、田中会長の孤軍奮闘に  
よるものと聞きおよび敬服し

ている。  
会員22名、顧問3名中16名  
の執筆によるもので、紀行、  
隨筆を現代的な思考で几張面  
にまとめている。  
頁数は少ないが、越後の岳  
人にふさわしく地道な山行と  
登山活動がうかがえる。  
紀行で、筑木力氏の「戸隠  
の山々」では随分と資料をお  
持ちのようで、山の成立ち、  
地名、歴史、伝説等、実によ  
く調べておられ、山行では丹  
念な観察、淀みのない文章の  
流れ、流石ベテランである。  
佐々木敏郎氏の、飯豊連峰

は独身時代から、結婚、子育  
て等、年令によって山に対す  
る考え方の変わって行く心境が  
解るような気がする。  
随想では、筑木力氏の、近  
ごろ思うことは、生活環境は  
異なるが少年時代から山登り  
を続けている同年輩の私も同  
感である。  
渡部信栄氏の「私の中の自  
然保護」誰もが何となく危機  
感はあるのだが、直接我身に  
被害がないと本気に行動でき  
ないのだろうか。短文である  
が、人類が破滅に向っている  
のを喰い止めるための自然保



ている。

会員22名、顧問3名中16名

の執筆によるもので、紀行、  
隨筆を現代的な思考で几張面  
にまとめている。

の件をお願いしたところ、左記  
の通りカンパいただきました。

### 国体選手団への カンパ報告

阿部孝幸 100000円  
北村 猛 50000円  
杉本 敏 50000円  
濁川 浩 30000円

石川北信越国体、北海道国  
体の強化費と共にお届けしま  
した。

春山縦走は、蒜場山  
から、大日岳、飯豊  
本山、切合せ、川入  
のコース、年末年始  
の飯豊本山往復は、  
下越地方の山岳会で  
一度は試みるルート  
である。私も若い頃、  
どちらのルートも同  
じ時期に入った経験  
があるだけに苦勞が  
うかがわれ、なつか  
しかった。  
田中純夫氏の「谷  
川岳東尾根の一日」  
は独身時代から、結婚、子育  
て等、年令によって山に対す  
る考え方の変わって行く心境が  
解るような気がする。  
随想では、筑木力氏の、近  
ごろ思うことは、生活環境は  
異なるが少年時代から山登り  
を続けている同年輩の私も同  
感である。  
渡部信栄氏の「私の中の自  
然保護」誰もが何となく危機  
感はあるのだが、直接我身に  
被害がないと本気に行動でき  
ないのだろうか。短文である  
が、人類が破滅に向っている  
のを喰い止めるための自然保